

○（向江すみえ委員） すみません。今、ご答弁の中に太陽光発電と蓄電池をセットで普及させていくというご答弁がございましたが、これからは電力の自由化も始まり、電気代に対しても各家庭で本当に関心も高まると思います。ぜひ、区民に再生可能エネルギー、この太陽光で発電した蓄電池をためて使うという、とにかくもっとわかりやすいライフスタイルを提案していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○（米川大二郎会長） 環境課長。

○（環境課長） 委員ご指摘のとおり、太陽光発電システムと蓄電池をセットで使えば、当然、夜間電気を購入しなくて済むので電気代はとて安くなります。このようなライフスタイルを区民にわかりやすく伝えるということは大切なので、今後、工夫してまいりたいと考えております。

○（米川大二郎会長） 向江委員。

○（向江すみえ委員） 皆さんもテレビで見られた方も多いかと思いますが、先日、テレビでLEDペットポタルという、地域活性化のためにまた各地で活躍しているという内容が紹介をされました。昼の太陽光エネルギーで発電して、暗くなるとLEDがもう自動的に点灯するという本当にシンプルな発光措置で、1つ大体700円、七、八百円だと言われたと思います。太陽光エネルギーを利用するものなので、地球環境に優しく経済的にも大変好評です。太陽光で発電し、蓄電池でためた電気を夜使うという仕組みをわかりやすく伝えるものとしてこのペットポタルというものがありますが、区はどのように認識されていますでしょうか、お聞かせください。

○（米川大二郎会長） 環境課長。

○（環境課長） 多分、私も同じ番組を見たと思います。非常に小さな太陽光発電パネルと蓄電池、あとLED電球をセットにしたもので、昼の太陽光で発電、蓄電し、暗くなるとLEDが自動的に点灯するというシンプルな発光装置でございます。

以上です。

○（米川大二郎会長） 向江委員。

○（向江すみえ委員） このペットポタルを使ってライトアップを行っている自治体がたくさん紹介されていまして。ぜひ、我が区としてもペットポタルを使ったライトアップを行ってみてはいかがでしょうか。お聞かせください。

○（米川大二郎会長） 環境課長。

○（環境課長） ペットポタルは、その仕組み上、電源や電線が必要なくて独立していますので、また単価も聞いたところによると700円ぐらいということなのだそうです。今、私もネットなどで見たら、石川県の輪島や富山などでライトアップで使っているというふうな状況でございます。環境課といたしましても、昼間、太陽光で発電と蓄電を行い、その電気を夜間使うというスタイルは、これをわかりやすく伝えることは、とても効果的だと思っております。その上でペットポタルはすぐわかりやすいのではないかと考えますので、今後の活用を検討してまいりたいと思います。

○（米川大二郎会長） 向江委員。

○（向江すみえ委員） 私は、地球の温暖化防止のために、区民が誰でもわかるような環境運動として、CO2削減の目的として、てんぷら油の回収を提案させていただきました。現在、21カ所で回収をされております。今年度から、バイオディーゼル燃料として再利用された公用車を1台走らせていただいております。公園等でも廃食油を使ったバイオディーゼル燃料をイルミネーションに点灯させたりして、とにかく環境教育ではないのですけれどもてんぷら油がこういうふうにして使われる、またさっきのペットポタルではないのですけれども太陽光がこういうふうな形で利用されるという、もっと区民にわかりやすくアピールするように、ぜひそういう施策も考えていただきたいと思っております。

また、これは提案ですが、柴又の土手にシバザクラが今植えてあります。高低差のある美しいのり面がありますので、このペットポタルを使ってライトアップをしていただければ、柴又のシバザクラのピンクの光も夜にはもっと映えてすばらしい光景になるのではないかなというふうに、そういうふうにも考えましたので、またいろいろな観光施策にも取り入れていただいたり、いろいろな公園等でも使っていただいて、こういう普及の仕方があるのだということを区民に多く知っていただく、そういう施策を考えていただきたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

○（米川大二郎会長） 環境課長。

○（環境課長） 観光や地域振興、地域活性化の視点でもライトアップは有効ですし、その際に環境に優しいペットボトルを使っていたらというのは非常にいいことではないかと思しますので、このペットボトルにつきましては庁内各課にPRしてまいりたいと思います。

あと、具体的な提案としてございました柴又の土手、ここはシバザクラを植えているところということでございますが、土手は斜面ですので、確かに斜面のほうがこういうLED電球、ペットボトルだと非常に優しい光源を使っているそうなのでライトアップがとても映えると思います。ただ、シバザクラを今植えている、管理している団体や、あと関係機関、また庁内各課とも協議し、ここでライトアップができないか検討してまいりたいと思います。

○（米川大二郎会長） 向江委員。

○（向江すみえ委員） 最後です。再生可能エネルギーの普及やもったいないの考え方を生かして、とにかく地球に優しい生活の転換はもう待ったなしだと思っております。本区でも、環境先進区を目指してさらなる施策の充実を望みますので、最後に区の考えをお聞かせください。

○（米川大二郎会長） 環境部長。

○（環境部長） 確かに、環境部が扱う環境問題や、ごみやリサイクルについては、区民一人一人の取り組みというものにつなげていくことが一番大切だというふうに考えております。そのためには、一つ、普及啓発を地道にやっていくということと、それから環境問題への取り組みを区民の生活の中に取り込んでいただくような仕掛けが必要だろうなというふうに思っております。今般、COP21を踏まえたパリ協定の中で、国や東京都も含めてさまざまな環境課題の施策の見直しを行っているというふうに聞いておりますので、区としてはそのような情報をきちんとキャッチをしながら、区民に情報伝達、啓発をするとともに、その取り組み、例えば国の補助制度が変わればその補助制度を活用した取り組みや国の考えや都の考えに沿ったような形で区の補助制度を見直していくというふうな形で、区民に普及啓発をしていきたいというふうに考えております。

具体的には、今お話にありましたように、ペットボトルのような身近な普及啓発活動や太陽光発電の取り組みの強化、さらに省エネのリフォームとか省エネ適合住宅への支援、さらに先ほども話がありましたように、蓄電池と太陽光発電を組み合わせた形でゼロエネルギー住宅やゼロエネルギービルなどの支援などについても検討していきたいというふうに考えております。また、東京都も強く推進をしております、水素を活用した社会への取り組みに向けても積極的に検討していきたいというふうに考えています。その上で、葛飾区の環境行政を少しでも強化・充実していきたいというふうに考えておりますので、よろしく願いいたします。

以上です。

○（米川大二郎会長） 向江委員。

○（向江すみえ委員） ありがとうございます。

食品ロスも、食品ロスの半分が家庭からのごみなのですね。ですから、今ご答弁いただいたように、生活の中に取り入れていく本当に環境施策を、よりわかりやすく、これからも力強く推進していただきたいと思しますので、よろしく願いいたします。ありがとうございました。